

# J-PALS

Japan Patient Advocacy Leaders Summit

## J-PALSアカデミー

### 実施報告書

日時

2016年9月11日（日） 13:00～16:30

場所

グラクソ・スミスクライン株式会社 本社

共催：ヴィーブヘルスケア株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社

## 患者団体の運営を行う上で、実践的な知識やスキルを継続的に学ぶ『J-PALSアカデミー』

J-PALSは、患者団体を対象とした「学びとネットワーク構築の場」であり、さまざまな疾患の患者団体が団体の枠を越えて交流し、学ぶ場です。

J-PALSアカデミー（Japan Patients Advocacy Leaders Summit Academy）は、患者団体を対象に、団体の運営に必要とされる、より実践的な知識やスキルを継続的に学ぶ場であり、「医療政策」、「治療と予防」、「組織運営」の3つのテーマを柱として開催しています。今回で2回目の開催となるJ-PALSアカデミーは、2016年9月11日、GSK本社ビルにて開催され、14患者団体、22名の患者団体代表や会員の皆さんが参加しました。今回は「医療政策」、「治療と予防」の2つのテーマで講演を行い、J-PALS及びJ-PALSアカデミーでは初めての試みとして、社内講師に登壇いただきました。



## ● 挨拶

---

### <開会の挨拶>

**ヴィーブヘルスケア株式会社 代表取締役社長  
入山博久氏**

6月5日に、今年からの取り組みであるJ-PALSアカデミーを開催致しましたところ、90%以上の方々に大変満足であった、有用であったと回答頂くことができました。今後も、皆さんの活動に役立つ内容をお届けしたいと考えています。本日は、事前アンケートでみなさんのニーズが高かった2つのテーマで開催致します。

一つ目の『地域包括ケアシステム』は色々なところでその言葉を耳にしますが、具体的なイメージはまだ描きにくい状況だと思えます。みなさんにどのように関わってくるのか、具体的な取り組みは始まったばかりですが、簡単に概要をご紹介したいと考えています。

二つ目の『製薬企業と患者団体の関わり方について』は、みなさんが関心を持たれている内容だと思えます。医療業界という特殊な環境を踏まえて、今後我々はみなさんと、どのような関わり方をすべきなのか、みなさんと一緒に考えたいと思えます。



---

### <閉会の挨拶>

**グラクソ・スミスクライン株式会社 代表取締役社長  
フィリップ・フォシエ氏**

FORTUNE誌で、GSKは世界を変える企業として1位を獲得したことを共有したいと思います。これは、会社の戦略として社会問題に向きあい、持続可能な発展だけでなく、拡張可能な取り組みを行っている会社として認識された事を意味しています。これは私たちの4つの価値観を遂行してきたことにあります。

私たちの決定や行動の全ての中心にあるのは患者さんです。

J-PALSアカデミーはFORTUNE誌にはまだ認識されていませんでしたが、皆さまの声を聴くことで、皆さまだけでなく、私たちにとって大きな価値を生み出していると思っています。これからも皆さまの声よりJ-PALSアカデミーをよりよいものとして参りたいと思えます。



# ● プログラム内容

## 『医療政策』

グラクソ・スミスクライン株式会社  
マーケティング エクセレンス シニアエキスパート

**工藤 博 氏**



### 『地域包括ケアシステムについて』

日本の人口構造の変化に伴う医療提供体制の変化や地域医療構想、地域包括ケアシステムの概要をご紹介いただきました。今後、少子高齢化、総人口の減少や医療費をはじめとする社会保障費の増加に伴い、医療提供体制を変えていく必要があります。病床機能分化と病床数の適正化を都道府県ごとに図る地域医療構想がその一つです。また、患者さんを住み慣れた地域に帰すため、在宅医療などのサービスを提供する地域包括ケアシステムも考えられており、現在、地域医療構想と同時に進められています。このような医療提供体制の変化について、工藤さんには各都道府県の詳しい事例も交えながらお話し頂きました。

## 『治療と予防』

グラクソ・スミスクライン株式会社 取締役  
法務・コンプライアンス・渉外担当

**三村 まり子 氏**



### 『製薬企業と患者団体との関わり方について』

国民皆保険制度や社会保障制度など現在の日本の医療制度や医療費の仕組みから、製薬企業が行う薬の開発、市販後調査の流れや治験、それに伴う「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）」についてご説明頂きました。その後、利益相反、二重盲検、広告規制の3点を例に挙げて、医師と製薬企業、患者団体と製薬企業は、透明性をもって関係構築していく必要があることをお話し頂きました。

講義後、多くの参加者から質問が寄せられ、活発な意見が交わされました。また、『医療政策』に関しては、「データが充実していたので、理解が深まった」という声や、『治療と予防』については「製薬企業と患者団体相互の情報交換に必要な知識をこれからも吸収していきたいと思った」とのご意見を頂きました。